

むかしむかし 昔々の そお市

郷土を知る

社会教育課 文化財係 ☎ 099-482-5958

第12回

縄文時代の 土器生産工場



宮

之迫遺跡は末吉町南之郷富田、標高約240mの舌状台地にある縄文時代の遺跡です。県営特殊農地保全事業に伴い、昭和55年度に1500㎡が調査されました。

発掘調査の成果では、住居跡が1軒、土坑が2基、石組炉が2基、焼土跡が1基検出し、ドングリなどの炭化物が大量に見つかりました。出土遺物は総数10万点を超える膨大な量でした。土器より縄文時代中期から後期中葉までに時期が限られることが判明し、石器は日常生活に利用するものが多く、狩猟用のものは石鏃が1点のみ出土といった非常に偏った状況でした。

宮之迫遺跡は定住をしつつ、土器を生産する拠点であった可能性が考えられます。

出土した大量の土器は、装飾を施した口縁部が広がるずんぐりした形状で、全体に指や工具で幾何学的な沈線をデザインした、非常に特徴的なものです。これらは、縄文時代中期に九州内で分布していた阿高式土器の特徴を受け継いでおり、宮之迫遺跡の土器は、縄文時代後期にあらわれる指宿式土器や市来式土器の形態に発展していく、橋渡的な土器変遷の役割を示しています。



出土した土器は市指定文化財として末吉歴史民俗資料館・曾於市埋蔵文化財センターに展示しています。



考古学が科学的で信憑性のある学問として立証されるには、取り扱う遺物の時間的な証明が必要になります。縄文土器の研究は「遺物がいつのもの？」といった時間の研究が最も基本で、明治時代か



【アクセス】

県道71号垂水南之郷線、思いやりタクシー東柿木停留所から柿木方向へ。久保集落に向かう途中の柿木配水地に文化財案内看板があります。

※周辺から遺物が出土する可能性があります。遺物を見つけた時は教育委員会にお知らせください。

らの近代考古学の発掘調査以後150年以上の研究を重ねて、縄文土器の編年を整えてきました。宮之迫遺跡の土器は、南九州の縄文時代中期から後期にかけての指標の証明となる非常に重要なものです。